

## 27日 水曜

### 箴言

29:15 むちと叱責は知恵を与える。放っておかれた子は母に恥を見させる。  
29:16 悪しき者が増えると、背きも増す。しかし、正しい人は彼らの滅びを見る。  
29:17 あなたの子を戒めよ。そうすれば、彼はあなたを安らかにし、あなたの心に喜びを与える。  
29:18 幻がなければ、民は好き勝手にふるまう。しかし、みおしえを守る者は幸いである。  
29:19 しもべは、ことばだけで戒めることはできない。それが分かっても、反応しない。  
29:20 軽率に話をする人を見たか。彼よりも愚かな者のほうが、まだ望みがある。  
29:21 自分のしもべを幼い時から甘やかすと、ついには手に負えない者になる。  
29:22 怒る者は争いを引き起こす。憤る者には多くの背きがある。  
29:23 人の高ぶりはその人を低くし、へりくだった人は誉れをつかむ。  
29:24 盗人にくみする者は自分自身を憎む者。その人はのろいを聞いても何も言わない。  
29:25 人を恐れると罨にかかる。しかし、【主】に信頼する者は高い所にかくまわれる。  
29:26 支配者の顔色をうかがう者は多い。しかし、人をさばくのは【主】である。  
29:27 不正を行う者は正しい人に忌み嫌われ、行いの真っ直ぐな人は悪しき者に忌み嫌われる。

「むちと叱責」や「戒め」のように、子をしかるのには勇気と確信が必要です。それらは、愛情と信仰から来るのです。

「幻」とは将来のビジョンです。個人でも教会で



もビジョン（幻）が必要です。それが希望となり、意欲となります。主からいただきましょう。「しかしみおしえを守る者は幸い」とあります。もしもまだビジョンがはっきりしていなくても、当時の律法のような主のみこころを行うなら、間違いはありません。

怒りや憤りはそれ自体は罪ではありませんが、「怒る者は争いを引き起こす」とあるように、罪を犯す入り口になりやすいのです。収める訓練をしましょう。

24節にあるように間違っことをする仲間、互いに一致などありません。八方美人であることが主のみこころではありません。悪者には忌みきらわれることも当然あり得るのですから、正しい言動をする決心が必要です。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

